
マンモグラフィ診療報酬日米比較

日本では、マンモグラフィの診療報酬は、高い診断能力が要求されるモダリティであるにもかかわらず、胸部単純撮影&診断と同じ分類で、低い診療報酬に据え置かれている状況である。

平成 12 年 3 月 31 日、厚生省老人保健福祉局老人保健課は、「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」の一部改正をした老健第 65 号（平成 12 年 4 月 1 日適用）を各自治体に通知した。乳がんについて改正された点は、「50 歳以上の女性に対しては 2 年に 1 回のマンモグラフィと視触診による検診を、50 歳未満の女性に対しては年 1 回の視触診を行う」とした。それをうけて、平成 9 年 11 月に、日本乳がん検診学会が中心になり、関連 6 学会（日本乳癌検診学会、日本乳癌学会、日本医学放射線学会、日本産科婦人科学会、日本放射線技術学会、日本医学物理学会）に声をかけて「マンモグラフィ検診精度管理中央委員会」（精中委）を立ちあげた。精中委の業務はマンモグラフィ乳癌検診の精度管理に関する諸問題を検討するもので、2 つの委員会があり、「教育研修委員会」が医師、技師に対して診断精度を保つための読影、撮影の教育研修と評価を行うもので、「施設・画像評価委員会」は、検診実施機関に対して診断機器、画質の評価、指導を行っている。このように、関連学会は、一丸となり、診断精度をあげる努力をしているにもかかわらず、医療機関では、導入にみあうコスト（装置関連、人件費）の捻出に不安があり、必要性を強く感じているものの、導入にふみきれない施設が少なくない状況である。

今後、乳がん検診の機会の増加がますます求められ、検診のみならず治療を受ける患者が増加することが見込まれるだけに、多くの患者がこの医療技術を楽しむように、医療機関がコストを賄える適切な診療報酬化が早急に望まれる。

マンモグラフィ保険点数

日本：

アナログ：3760 円（376 点）

1 枚目（診断料 85 点 + 撮影料 65 点 = 150 点）

1 ~ 3 枚目（診断料 85 点 X 0.5 X 3 + 撮影料 65 点 X 0.5 X 3 = 226 点）

デジタル：4510 円（451 点 = 上記アナログ 376 点 + デジタル加算は 75 点）

米国（メディケア）：

アナログ：約 11300 円（両房 \$ 90.50 X 125 円）

デジタル：約 16700 円（両房 \$ 133.58 X 125 円）

アメリカのマンモグラフィの診療報酬（メディケア）

TABLE 1: 2002 Medicare reimbursement for Mammography services provided in Freestanding Diagnostic Imaging Centers and Physicians' Offices [vi]

Reflects National Average Rates, Which Are Adjusted For Locality

Procedure	Medicare Reimbursement Component	PLAIN FILM	DIGITAL TECHNOLOGY	CAD TECHNOLOGY
		National Medicare Payment Amount for CY 2002	National Medicare Payment Amount for CY 2002	(Add-on to Film) [vii] National Medicare Payment Amount for CY 2002
Unilateral Diagnostic Mammography [ix]	Technical Component	\$38.01	\$71.31	\$14.48
	Professional Component	\$35.48	\$36.56	\$3.28
	Global Payment Amount	\$73.49	\$107.87	\$17.74
Bilateral Diagnostic Mammography [x]	Technical Component	\$47.06	\$88.33	\$14.48
	Professional Component	\$43.44	\$45.25	\$3.28
	Global Payment Amount	\$90.50	\$133.58	\$17.74
Screening Mammography [xi]	Technical Component	\$46.33	\$89.77	\$14.48
	Professional Component	\$35.48	\$36.56	\$3.28
	Global Payment Amount	\$81.81	\$126.33	\$17.74

Technical Component : 撮影料

Professional Component : 医師の診断料

Global Payment Amount : 上記2つの Component の合計

米国で、FFDM (full - field digital mammography) が、2000年1月末に、FDAの認可を受け、米国内で現在約300台のFFDMが稼働している。日本では、2000年6月に厚生労働省の薬事認可を得て、現在19台が稼働している。この導入台数の差の理由のひとつとして、日本の診療報酬の低さがあげられる。FFDMの優位性としては、カセットなどの入換えが必要なく、撮影画像がリアルタイムで確認できるため検査時間の短縮が可能となり、患者さんの苦痛が和らげることになる。短縮された時間を利用して、患者さんへの詳しい説明も可能となる。また、数多くの患者さんの検査も可能となる。さらに、ダイナミックレンジの広さとX線変換効率の高さで、低線量で高画質を得ることができ、高速画像処理装置で、診断し易い画像を得ることも可能である。デジタル化のメリットとして、保管の簡易性、フィルム紛失防止、フィルム費用の削減、通信による画像転送などがあげられており、導入についての関心は日本でも高いのが現状である。